C. 総合学習の研究

安藤富美子　川田　基生　白井　宏　鈴木洋一郎
*高須　明　高橋　祐子　田中　裕巳　徳井　輝雄
**増田　温美　松井　一幸　三橋　一夫　山田　雄一

“ゆとり”の時間を利用した総合学習の展開

――中3における総合学習「人間について考える」の試み――〔その2〕

1. 総合学習研究四年の歩みから

徳　井　輝　雄

1　研究グループの歩み概況

〈1979年〉

グループ発足。総合学習の実践例を，主に文献から学ぶ。各出版社から出されている教科書（中・高校の各教科にわたる）の公害をめぐる記述の調査をする。

これらについては，本紀要第24集（1979年）に発表した。

〈1980年〉

総合学習実践の場を，修学旅行に求める。これについては，本紀要第25集（1980年）「総合学習の場としての研究旅行の試み」にて報告した。

〈1981年〉

総合学習実践の場を，中学三年生の”ゆとり”の時間に求めてみることにし，その原案作りをした。これについては，本紀要第26集（1981年）「”ゆとり”の時間を利用した総合学習の実践に向けて」で試案を発表した。

〈1982年〉

シリーズ「人間について考える」の授業を一部開始し，全面展開に向けて十の授業案を作った。これについては，本紀要第27集（1982年）「”ゆとり”の時間を利用した総合学習の展開 ― 中三における総合学習『人間について考える』の試み ― 」においてその一部を発表した。

1982年の春から1983年の冬にかけて，用意された十の授業案はすべて実行に移された。今回の報告は1982年度発表の続編である。

2　私達は総合学習に何を求めようとしたか

1979年のグループ発足当時のメンバーの担当教科は，国語・社会・技術・数学・理科・英語・保健と七教科にわたっていた。グループに集った動機はさまざまであったが，それをまとめてみると次のようになった。

1. 担当教科を教える中で，より深くより高い内容を教えるには，他教科との連携の必要性を感じて来た。たとえば，保健で扱われる公害と健康に関する事では，生物・社会との連携が望まれたし，生物の遺伝をめぐる項目では倫社との連携が望まれた。

2. 戦争と平和，公害，現代科学技術の諸問題，核

教員移動により昭和58年4月より
*県立日進西高等学校
**師勝町立師勝中学校

兵器といった時事的・社会的問題を総合的にとり上げようとする時，どうしても従来からの教科の枠の中だけでは教えにくいことを感じてきた。

3. 高校普通教育の在り方，たとえば総合制高校を考える時，総合学習を一つのキッカケとして，新しい学校像が考えられないかという期待があった。

4. 新しい学習内容と共に新しい学習方法，たとえば映像や音響など感性的認識をこれまで以上に使った授業の展開を試みる事はできないかという期待があった。

3 シリーズ「人間について考える」の授業で，何を私達は訴えようとしたか。

このシリーズの授業実現のために，私達グループは二年余の共同研究を重ねて来た。そして出来上った十回の授業で私達は何を訴えようとしたのだろうか。いいかたを変えれば，何に向けて生徒の総合性を発揮させようとしたのだろうか。グループのメンバーの意図はさまざまであった。それを次に列挙してみよう。

○人間はどこから来てどこへ行こうとしているのか知らせたかった。
○人間の未来，食糧危機の到来を知らせる事は，受験勉強や，個々の英語・数学といった教科の学習よりも大事であると思った。
○人間も生物の一員であるという事を知らせたかった。
○生命の尊さや生きていく責任を感じさせたかった。
○ヒューマニズムとは何かを考えさせたい。
○真に人間らしいとはどういう事かをつかんでもらいたかった。
○人間にとって学ぶとはどういう意味か，あるいは，人生における学習の位置づけを学んで欲しい。
○教師も学んでいるという事を知らせたい。
○教師がふだんの教科の授業ではみせない顔をみせたかった。

私達教師がこのようなさまざまな意図をもって，人間について語るとき，それに導かれ触発されて生徒達がさまざまに考えたり，思ったり，感じたりする事の中に総合が存在する。総合化は思考や感性にある方向性が与えられた時に発揮される。すなわち，一連の授業を受けて生徒が，たとえば生命の尊さを感じたとすれば，そこに総合化が発揮された事になる。生命の尊さを感じるのに，いわゆる理科や社会科や保健といった枠にとらわれてはいないはずだ。その分野に関する事を学んだり知ったりしている事はたしかであるが，それらを総合化して生命の尊さを感じるに至っているはずである。

この事はあたりまえの事であるが，実際にはあまりあたりまえではない。私達の授業の中で，たとえば理科では数学の時間に学んだ事をうまく使えないし，数学では理科の時間に学んだ事を使うことは思いもつかないという場面をよく経験する。すなわち生徒は，数学の時間では数学の時間に学んだ事しか使ってはならないのだとしらずしらずのうちに思い込んでしまっている。これは，私達教師の教える側の責任である。私達は担当教科の枠からはみ出る事を無意識のうちに警戒し，あるいは意識的にワクに閉じ込もってしまう。その為そのような生徒を育ててしまうのである。この事は定期試験やとくに入学試験の問題を作るときに極端な形であらわれる。数学の入試問題を作るのに，理科の知識（初歩的なものであっても）を必要とするような事の出題を極度に警戒する。数学の問題に理科の知識が入る事を，試験をする側も受ける側も社会一般もあるべからざる事だと思っているのが一般的傾向である。試験では教科のワクの中だけでしか思考させないのが当然視されているのだ。

したがって，総合的な思考を狙った私達のこんなに陳腐な総合学習でさえ貴重なものとなるのである。人間というものをあらゆる角度から眺め，あらゆる既得の知識を動員して考えていく……これがいかに重要な事かを今さらながら確認したといえる。各教科の定期試験や入学試験では，単独教科をどれだけ学んだかをみるのであって，学んだ事をどれだけ使って物事を処理していくかをみてはいない。閉じた世界の知識を試すのであって，開いた世界に通じる知識を試してはいない。こんな事を義務として9年間も課しているのである。

私達の意図……人間らしさとは何かをつかませたいとか生命の尊さを感じさせたい等々……はまさに生徒に総合性を発揮させる方向を与えている事になる。

4 総合学習の意義

私達グループの四年余にわたる研究と実践の中で，次のような意義を，総合学習の中に見付けたり感じたりする事ができた。

＜生徒にとって＞ 物事を総合的にとらえる機会となる。学習の意味（受験以外の）を知る事ができる。この経験が将来の自学自習の参考になる。そしてさらに積極的に生きる事，学ぶ事と生きる事のむすびつきを知り，生きる力としての知識を持つようになる。

＜教師にとって＞ 何の為に物理を教えるのかといった教科の本質に戻って考える機会を与えてくれる。教科外教育を指導する一つの指針を与えてくれる。修学旅行や林間学校，文化祭を総合学習の場としてとらえてみようというように。さらに，現在の教育が持っている問題点を解決する糸口を与えてくれる。たとえば，

系統化・専門化・細分化・脱生活化のいきすぎという問題点をもつ現在の教育に対置するものとして，歴史性・総合性・人間化・生活化・感性的体験などをもたらすものとしての総合学習が考えられる。あるいは，受験一本ヤリの教育に対するものとして，本来の中学完成教育や高校完成教育の具体化としての総合学習が考えられる。

さらに私達がこの総合学習の研究と実践から気づいた点は，我々教師がなかなか総合的に物事をみれず，専門教科のワクを出れず，従来の黒板を主体とした講義調の授業から脱皮できず，生徒の全体像に迫る事ができないでいるという事である。この最後の意味は，こういうことである。教師は専門教科を通じてしか生徒を見ておらず，数学の教師は数学の出来る生徒が良い生徒だと思ってしまいがちになるという事である。生徒は三年間で全体として何を学んだのかという事に全く無関心であり，ましてや中学や高校の三年間で，どのような生徒に育て上げようとするのか，教科担任は全く無関心であるか，又は積極的にそのワクを越えてそれにかかわろうとしない。教師の関心事が専門化・細分化されている。

私達は総合学習にとり組んだ事により，生き方を教える場としての新しい教育へのワンステップを踏み出した事になるし，新しい学習領域と新しい学習方法への冒険を始めた事になる。そして何よりも自分自身の総合化をしはじめたのだ。

5　今後の課題

まず第一には，私達はもっとグループ内で相互学習をしなくてはならない。担当教科で困っている点を出し合う。そしてそれを解決する一つの方法としての総合学習を共同で作りあげていく事である。すでに作られた十の授業は私達の共有財産となっている。さらに共有財産を増やしていく事である。

この総合学習では生き方を教えていくのだとすれば，次の課題はやはり平和教育であろう。人類が生きのびる為の教育である。そしてその方法は受験戦争から脱落し，さまざまの理由で学校生活がいやになっている生徒でも興味を持ち魅力を感じるようなものを作っていかなくてはならない。

内容と方法に関する課題のほかに，この総合学習の実践を通じて，学校全体の総合化，あるいは学習課程を再検討し，三年間の学習をまとめ完成させるという意味をもつ総合テーマ，あるいは卒業試験としての総合的卒論の実施に向けて努力しなくてはならない。

たとえば，日本が平和な将来をもつ為にどうすればよいかというテーマで，三年間を学ぶ。その中には，教師集団のパネルディスカッションをとり入れたり，学外から講師（有名人や学者に限らず市井人でもよい）を招いて話を聞いたり，映画や見学会を織り込んだりする。修学旅行でヒロシマに行くのは有力な行事となろう。文化祭など文化的行事で，平和と戦争をテーマに展示や演劇や合唱などを行う事も良い。このようにして卒業の時期をむかえたならば，三年間で学びとったものを一つの論文（作文）にして出してもらう。

このように総合学習を従来の教科学習とは違ったものにするためには，新しい教育哲学の下に，新しい内容で，新しい方法を用いて実践しなければならない。

そしてその実践は，学校の教育組織と学習課程のしくみをも改変していくものとならなくてはいけない。この三つの側面が，総合学習を研究する私達グループの課題である。

2.「人間について考える」……授業案の実際

(1)　総合学習④「食物の歴史」を終えて

増　田　温　美

1. 授業のねらいと実際

人類の発展を食べ物の観点から知らせ，人間の創造性の豊かさを感じとらせることをねらいとして「人間について考える ― 食物の歴史 ― 」の授業を実施した。

生物が生き続けていくとき自然条件に大きく影響される。人類とても同じで，大きくちがってきた自然条件を克服して今日の発展がある。そこで食べ物という一つの観点から人類の発展を歴史的にとらえて，人間とはを考えさせようと試みた。その中で直立歩行による手の活用，脳の発達により道具をうみだし，"文化"をもつに至ったこと，現代もなお新しい文化が生まれつつあるという豊かな創造性をもつものとしてとらえさせたい。そのためには発展の様子を実際に体験させ